

酸化マグネシウムの長期内服による高マグネシウム血症

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者の内服薬に応じて必要な検査オーダーを提案することで、予想される副作用を回避された事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

・統合失調症に対して治療目的にて入院中の患者。79歳と高齢である。
腎機能も低下しており、現在 eGFR 値は 26.4ml/分となっている。

【処方】

酸化マグネシウム錠 330 mg 1回2錠 1日3回 毎食後 7日分

Iさん



医師



Iさんは酸化マグネシウム錠を何年も飲み続けているそうです。高マグネシウム血症の自覚症状は出ていないようですが、高齢で腎機能も低めなので、定期的にMgの値も確認しておいたほうがいいと思います。いかがでしょうか。



薬剤師

そうですね。検査項目に追加しましょう！

検査結果…血清マグネシウム値 **3.0mg/dL** （正常範囲：1.5-2.5mg/dL）



やはりIさんのMg値は少し高いようですね。

そうですね。
できれば酸化マグネシウムを減量するか、他剤への変更が良いのではないかと考えます。



なるほど。自覚症状は出ていないので、酸化マグネシウムの量を減らしてみましょう。

わかりました。減量後の排便コントロールをモニタリングしていきたいと思います。



酸化マグネシウム錠 330 mg 6錠/日から2錠/日へと減量され、その後、排便回数の減少はあったが、排便コントロールは概ね良好である。患者の背景や検査値から今後予測される副作用を事前に回避することができた。